

科目名	異文化間コミュニケーション論 特殊研究	担当者	ニシダ 西田	ツカサ 司	期間	通年	単位数	4
-----	------------------------	-----	-----------	----------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>アメリカのヒューマンコミュニケーションの研究領域においては、理論研究や特定テーマの研究が行われています。それは日本の研究に影響を与えています。</p> <p>本講座の目的は、価値観と文化心理に関するコミュニケーション研究について学ぶことです。それぞれの研究は異文化間コミュニケーション研究の特定テーマの研究でもあります。それぞれの研究は40数年の調査・研究の蓄積があり、異文化間コミュニケーション研究に欠かせない研究です。</p>		
到達目標	<p>到達目標は、教科書として選定した専門書を批判的に読み、この40数年の研究を概観します。領域について、まず学び、要約という形でレポートの前半を作成します。</p> <p>レポートの後半は、考察です。考察では、前半の要約で用いた専門用語を用い、自分の知識や経験について述べるができるかどうか、考察のレベルを判断する基準になります。</p> <p>換言すれば、レポートの前半(要約)では、領域の大半の専門用語を含んだ要約になっているか、レポートの後半(考察)では、領域の専門用語を用いた考察になっているかが、到達目標となります。</p>		
学修方法	<p>上記の到達目標を達するには、以下の学修をします。</p> <p>要約と考察という形で提出されたレポートを添削することによって、学修の状況を確認します。添削により指摘した部分につき、加筆、修正し、返送されてくる再提出のレポートを確認することにより、領域が正確に把握できているか、確認します。</p> <p>基本的に、1回の添削により、評価対象になるレポートを作成することができますが、必要な場合は、2回あるいは3回の添削指導も行います。</p>		
スケジュール	<p>提出時期は、9月中旬と1月中旬となります。</p> <p>それぞれのレポートの作成に当たっては、添削指導を行います。つまり、1回目の草稿を受け取り、1週間ほどを費やしコメントを付け、戻します。添削された草稿を受領したら、コメントを参考に、加筆修正し、2回目の草稿を提出します。</p> <p>十分に余裕をもってレポートの提出に臨んでください。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	レポートの評価は全体で、80%とします。 1つのレポートに、20%を配分します。
	平常評価	20%	草稿への加筆、修正のコメントに対する対応を評価します。 1つのレポートに、5%を配分します。
履修者への要望	<p>基本的なことですが、教科書の課題範囲をよく読み、また、参考図書として挙げられている文献も、適宜理解を進める上で、よく読んでください。その上で、要約と考察をしてください。</p> <p>領域の全体を理解するために、次の書物も役に立ちます。</p> <p>Berger, C. R. &amp; Roloff, M. E. (Eds.) (2016) <i>The International Encyclopedia of Interpersonal Communication</i>. Vols. I - III. Wiley Blackwell.</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： マツモト, D. 教材名： 『文化と心理学：比較文化心理学』（北大路書房，2001年）ISBN:978-4-76-282220-9 2,500円+税
	文化と自己，感情という構成と，文化と言語，コミュニケーションという構成でもって，本書のテーマの心理とコミュニケーションを論じています。 心理学の研究に，文化的要因を認める必要性が強調されているところから，異文化間コミュニケーションの領域でもよく読まれている文献です。
参考図書	北山忍『自己と感情』（共立出版，2003年）ISBN:978-4-32-002859-3 2,600円+税 Matsumoto, D. (2000). <i>Culture and Psychology: People around the World</i> . Wadsworth: USA. ISBN 0-534-35436-X
履修上のポイント	本書は40数年に渡る研究の翻訳書なので，翻訳された類書を探すのは難しいが，本書をじっくり読むことや，英語で書かれた類書を読むことは，この領域を学ぶことでは，たいへん意味のあることです。まず，レポートの要約の作成に全力を尽くしてください。その後に，自分の知識や経験をもとに，考察してください。
レポート課題 1	第1章～第4章を4,000字で要約し，その中から1つの章（テーマ）を選び，知識や経験をもとに1,000字で考察してください。 <b>留意点：</b> 考察では，要約で用いた専門用語を使うことが肝要です。
レポート課題 2	第5章～第7章を3,000字で要約し，その中から1つの章（テーマ）を選び，知識や経験をもとに1,000字で考察してください。 <b>留意点：</b> 考察では，要約で用いた専門用語を使うことが肝要です。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 山口勲 教材名： 『社会心理学』（東京大学出版会，2003年）ISBN:978-4-13-012037-1 2,600円+税
	著者によると本書は，アジアの観点からの社会心理学の入門書です。 「アメリカで提案された理論はどの文化でも当てはまる」という前提で提示されています。本書は「社会心理学で扱う社会的要因は文化と密接に関連している」という観点から，その前提を検証するユニークな書です。
参考図書	Triandis, H. C. (1995) <i>Individualism &amp; Collectivism</i> . Westview: USA. ISBN:978-0-81-331849-3 (Hardcover) Gao, G. & Ting-Toomey, S. (1998) <i>Communicating Effectively with the Chinese</i> . Sage. ISBN:0-8039-7003-X (Paper)
履修上のポイント	個人主義と集団主義という見方をまず理解してください。 次に「甘え」「面子」といったアジアの心理価値に関する研究を理解してください。
レポート課題 1	第1章～第3章を3,000字で要約し，その中から1つの章（テーマ）を選び，知識や経験をもとに1,000字で考察してください。 <b>留意点：</b> 考察では，要約で用いた専門用語を使うことが肝要です。
レポート課題 2	第11章，第13章，第14章を3,000字で要約し，その中から1つの章（テーマ）を選び，知識や経験をもとに1,000字で考察してください。 <b>留意点：</b> 考察では，要約で用いた専門用語を使うことが肝要です。